

7 国際交流

進捗状況報告

○基礎的な状況を継続的に観測する指標				公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2004	2005	2006	2007	2008	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数			公開	○		機関							
指標2	国際交流協定締結国数			公開	○		国							
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数		公開	○		国							
		外国人留学生	正規	公開	○	○	人	26	30	31	30			
			交換	公開	○	○	人	18	18	17	21			
		外国人留学生在籍学生比率	正規	公開	○	○	%	0.9	1.1	1.1	1.0			外国人留学生÷在籍学生数
			交換	公開	○	○	%	0.6	0.6	0.6	0.7			
その他 (セミナー等による受け入れ)	公開	○		人										
指標4	海外への学生の派遣	国 数		公開	○		国							
		人 数	長期	公開	○	○	人	15	9	14	10			
			短期	公開	○	○	人	26	24	29	25			
		在籍学生比率	長期	公開	○	○	%	0.5	0.3	0.5	0.3			海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	公開	○	○	%	0.9	0.8	1.0	0.9			
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)			長期	公開	○	○	人	0	0	0	0		
				短期	公開	○	○	人	0	0	0	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)			長期	公開	○	○	人	4	5	3	3		
				短期	公開	○	○	人	54	38	30	30		
○施策の目標の達成度を測る指標				公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2004	2005	2006	2007	2008	備考	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数			公開	○		人							
<small>注) 全学的な視点、個別的な視点について 全学的な視点とは国際教育協力センターの進捗状況報告シートに表示される項目 個別的な視点とは各学部/研究科の進捗状況報告シートに表示される項目 注) 正規、交換について 正規とは学位取得目的、交換は正規以外とする。 注) 長期、短期について 指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。 指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。 注) 指標4は学部、研究科を合わせた数とする。</small>														

商学部では、引き続き30名程度の外国人留学生を受け入れており、海外からの交換学生も20名前後で推移しているが、海外への学生の派遣（長期＋短期）の数は、受け入れ学生数に比べれば低位で推移している。このように、受け入れ学生数に対して、海外への派遣学生数が少ないことは、国際交流推進の観点からは課題である。しかしながら、現行の制度では、3、4年生が短期で留学する場合でも研究演習(ゼミ)の履修を諦めざるをえないという教務的な問題等があり、制度の整備が望まれる状況にある。なお、特筆すべき点としては、国際教育・協力センターから通達のあったビザ延期問題への対処として、外国人留学生を対象にした個別面談をおこない、きめの細かい学習指導や助言を行った。

次に、国際教育・協力センターと国連ボランティア計画(UNV)との協定による国連情報技術サービス(UNITes)学生ボランティア派遣については、1名の学生が参加し、キルギスタンの現地NGOにおいてマーケティングの知識に基づいたスタッフトレーニングや地元企業へのサポートをおこなった。このようなプログラムは、Mastery for service というスクールモットーにも合致し、新しい教育の在り方として積極的に推進すべきであるが、現行の制度下では、上述の研究演習の履修制約の問題を抱えており、この点においても制度環境の整備が望まれる。

また、海外からの客員教員受け入れについては、積極的に推進したいという意向はあるが、残念ながら、成果としては現れていない。今後は、EUIJ関西の窓口として機能してきた商学部と結びつきの強い産業研究所との連携をはかりながら、受け入れ客員教員の候補を探すなどの取り組みを強化していきたい。しかしながら、制度によっては生活面でのケアを招聘に携わる教員が個人負担せざるをえないという問題や、長期受入れをする場合には、義務とされる講義数の制約が厳しいことなどから、海外研究者からの問い合わせはあっても、条件提示の段階で断られるケースがある。この点、全学的な制度の見直しを求めたい。

学内第三者評価

派遣学生が少ないことについて教務上の問題があると記述してあるが商学部独自の問題であるのか、大学全体の問題であるのかなど具体的な記述がない。今後さらに改善に向けての検討が期待される。
<p>なお、学外委員からは以下の意見があった。</p> <p>学部として改善への意欲は感じられる。</p> <p>学部・大学院あわせて3000人近い学生をかかえているにしては、留学生数、派遣数ともに少ない。</p> <p>さらに受け入れ教員が過去4年間一人もなしとはどのような事情によるのか。国際教育・協力センターとも協議して、学術振興会制度の活用等も考えて一層の改善努力が望まれる。そのための学部レベルの検討機関が必要かもしれない。</p>